

第10回 神奈川県支部サイエンスカフェ 実施報告書(HP 記載)

開催日	2022年9月11日(日)
開催時間	13:00~16:00
名称	第10回 神奈川県支部サイエンスカフェ ◆ 海外における日本の技術者による青少年教育支援 ◆
主催者等	日本技術士会 神奈川県支部(担当委員会:科学技術振興支援小委員会)
開催場所	神奈川県立青少年センター
行事内容	(1) 講師による話題提供 (2) 参加者によるディスカッション「海外の教育に対する技術者の関わり」「日本の教育のあり方」
参加人数	15名(正会員13名、非会員2名(講師のぞく))

セッション1 講師による話題提供

(1) 魅惑の南インド

北インドに比べて古い文化が残っており、柔和な人柄。

(2) インドとインドの教育の現状

人口の伸びが著しい。義務教育強力な推進(食費、制服を含む教育費を国家が負担)。

(3) インドの初等教育と日本企業の関わり

企業利益の3%を社会貢献に充てる義務。日本企業は施設の寄付や支援授業で貢献。

(4) インドの大学と日本企業の関わり

日本企業による日本式ものづくり学校。女性のための工科大学との連携。

(5) インドの「KAIZEN」と日本の改善

インド中で KAIZEN Competition (改善競技会) が行われている。

セッション2 参加者によるディスカッション

(1) 海外の教育に対する技術者の関わりについて

- ・進め方として、企業や公的機関を通じての支援が考えられる。
- ・英語の壁があるが、内容がしっかりしていれば問題ない。
- ・さまざまな分野の技術士による総合力を活かせる。
- ・日本の常識を強制しない。繰り返し伝えるのが大事。
- ・ゴールを決めてステップを明確にすると理解してもらえる。

(2) 日本の教育のあり方

<問題点>

- ・教員の多忙、技術的なスキルを持つ教員の不足等の学校の問題。
- ・自ら発言しない、議論を好まない、保護者が進学先を決める等の生徒の問題。
- ・給与の抑制・開発の停滞、失敗が許されない、過度なリスク回避等の産業側の問題。
- ・ものづくりの軽視、SDGs 偏重等の日本社会の問題。

<提案>

- ・教育現場に対する技術士のサポートが可能ではないか。
- ・正解は1つだけではない、複数のやり方を容認する。
- ・受けた教育を生かす場をつくる。

概要



事後アンケートより

- ・技術、人、文化の関わりが非常によくわかりました。
- ・初めてでドキドキしましたが、いろいろディスカッションできてよかったです。
- ・理科教育に技術士もサポートできるはず。